

入選

小さな親切、大きな勇気

大阪府 咲くやこの花中学校 3年 杉本 空

友だちと難波に遊びに行ったときのことだ。午後 5 時前となり、空は少し曇っていた。そろそろ帰ろうかと、広い駅の階段を降りていた。そのとき、大きな大きなスーツケースを持ったお母さんと、小学 4 年生ぐらいの女の子と、一年生ぐらいの男の子が困っている様子なのを見かけた。

どうやら、韓国から日本に旅行にきた親子らしく、スマホの地図に向かって不安そうな表情だった。広い広い難波、私たちもはっきりと道はわからない。声をかけてみようか、しかし声が出ない。私たちは立ち去ろうとしてしまった。まわりには誰もいない。私は自分のおろかさに腹が立った。

すれ違った瞬間、「すみません！！」と女の子が私たちに尋ねた。私たちはすぐさま振り返り、そのお母さんらしき女の子の目を見た。

「タイソー、タイソー。」

韓国では「ダイソー」のことを、「タイソー」と言うのだろうと悟った私たちは、

「そこまでいっしょに行きます！！」

とジェスチャーや英単語を並べ、なんとか伝えた。私たちが笑顔を見せると、3人はとてもホッとしていた様子だった。あやふやだったが、私たちは一歩を踏み出した。着くのだろうか、と不安を抱きながらも私たちは人混みの中を進んでいた。

分かれ道では、北や南をあちらこちら、行ったりきたりした。少し時間はかかってしまったものの、私たちは無事、3人をダイソーまで案内することができた。ダイソーの前に着くと、お母さんも、女の子も、男の子も、とびっきりの笑顔を見せながら、

「ありがとう！！ ありがとう！！」

と言ってくれた。その少しカタコトな「ありがとう」を聞き、私たちも心が温かくなった。すると、お母さんは私たちにチョコレートくれた。

「カムサハムニダ。」

次は韓国語で、「ありがとう」と伝えながら、私の手を握った。私たちは、照れくさい気持ちをおさえ、また笑顔を見せた。

「よい旅を。」

と伝え、私たちは親子に大きく手を振った。再び駅に向かう途中で、チョコレートを食べた。甘い、けれどどこかすっぱいチョコレートだった。

親切というのは、する側も受ける側も気持ちがよい。このことを私はこの日、強く感じた。甘ずっぱさが口に残る中、私はまた空を見上げた。少し前まで曇っていた空には、驚くことに大きな夕日がキラキラと輝いていた。